

=====

第 95 回クリエイティブサロンのご案内

=====

開催日：2026 年 12 月 5 日（土）

時間帯：16:00-17:40 （予定）

開催地：九州大学東京オフィス（有楽町駅徒歩 1 分）

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/facility/external/tokyo/>

開催方法：ハイブリッド開催（会場・オンライン（Zoom））

参加費：無料

※文末に申込み方法記載

【スケジュール】

16：00～16：05 開会挨拶・由井蘭先生紹介

16：05～17：05 由井蘭隆也氏講演（60 分）

17：05～17：15 質疑応答（10 分）

17：15～17：35 来場者交流タイム（20 分）

17：35～17：40 閉会挨拶

◆講演 1

『AI 時代における創造性の涵養についての個人的考察 ～コンピュータ・AI と人間の相互作用～ 』



由井蘭隆也氏

【プロフィール】

現在、北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究科・教授。データ社会メディア研究領域長。コラボレーション技術&創造性研究室を運営し、学際的な研究・教育に従事。過去に、鹿児島大学・工学部・助手、島根大学・講師、助教授、そして現在に至る。KJ 法を参考にした発想支援グループウェアの研究で博士（工学）の学位を取得。指導学生による日本創造学会論文賞や KICSS 国際会議 Outstanding Paper Award を含め複数受賞。創造学会、ACM、IEEE、情報処理学会などの学会会員。

【講演概要】

生成 AI を用いたサービスは社会普及し、従来では考えられなかった高度な知的能力を発揮し、経済活動へ大きな影響を与えている。元々、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア）は演繹思考を中心に実現され、人間による表現を拡張してきた。

現在、莫大なデータを用いた確率・統計処理によって、経験的な帰納思考を用いた AI が実現されている。今回、創造性の涵養について、コンピュータ・AI と人間の相互作用を踏まえて検討できればと考えている。

具体的に、創造性研究におけるフロー理論（技能と挑戦との関係）や創造性の 4 P モデル（Person, Process, Product, Place）を用いて、三種類の「きょうそう」（共創、競創、狂創）について検討してみたい。

その結果、自動化パラドックスを超えて、AI を創造性の涵養に用いるにはどうすればよいか？という問いに対する多様な探求につながれば幸いです。

申込締切：

オンライン参加：12 月 5 日（土）15：00

対面参加：先着 20 席 なくなり次第締切

参加申込方法：

【現地参加のかた】

このメールへの返信（jcs-info@japancreativity.jp）でお申し込み下さい。

その際、[] 内についてお知らせ下さい。

[氏名/所属/会員 or 非会員/メールアドレス]

【オンライン参加のかた】

イベントポータルサイト Peatix より参加申し込みができます。

<https://95th-cresalo.peatix.com>